



大人は、食べても、なぜ子どものように大きくなるしないの

大人になると、成長が止まるため

人間には成長期というものがあり、ある年れいまでは、背がのびるなど、体は成長を続けますが、大人になるとその成長は止まり、背はまったくのびなくなります。

ですから、大人になると、食べても、子どものように、体は大きくなるしないのです。これには何か原因がありそうで、現在も、世界中の多くの研究者が、研究を続けているのですが、まだ、その原因はわかっていないのです。

体を成長させるのは成長ホルモン

人間の体の中には、成長ホルモンとよばれる、体を成長させるものがあります。しかし、この成長ホルモンは、大人になってから後にも、それまでと変わらない量が血液中にふくまれているため、成長が止まるのは、このホルモンとは関係がないようなのです。

身長は、骨がのび続けているかぎりのびていきます。ふつうは、11～12才くらいからどどんのびはじめ、16～17才くらいになると、のび方がおそくなり、そのうち、のびるのはストップしますが、なぜ、10代のときに、このようにのびるかについても、今のところ、なぜになっているのです。(監修・保志 宏)

骨が大きくなり、体も大きくなる



大人の骨

